

# 鎮源『法華驗記』と慶滋保胤『日本往生極樂記』

## ——『法華驗記』第三七話「六波羅密寺定読師康仙法師」の並行話比較——

岡 田 文 弘

### 一 はじめに

平安時代の説話集である鎮源『法華驗記』(一〇四〇—一〇四四成立、以下『驗記』)は、慶滋保胤『日本往生極樂記』(九八五—九八七成立、以下『極樂記』)から大きな影響を受けている。『驗記』には『極樂記』の同文話が十例あり、『極樂記』の章立てをも踏襲しており、また両編者とも恵心僧都源信と関わりがあったとされる。<sup>(2)</sup>このような『驗記』と『極樂記』間の密な関係は、先行研究においてもかねてより指摘されており、<sup>(3)</sup>『驗記』の成立を論ずる上では、『極樂記』からの影響を検討することが不可欠であると言えよう。

本研究では鎮源がいかに『極樂記』を下敷きとしながら独自の法華説話集を作ったかを考察する。加えてそうして示された鎮源『驗記』の独自性が、のちの説話伝播にどう影響を与えたかについても見ておきたい。

題材としては、『驗記』第七話「無空律師」と、第三七話

「六波羅密寺定読師康仙法師」を取り上げる。前者は『極樂記』第七話をほぼそのまま引き写したものである。後者は『驗記』第七話(ひいては『極樂記』第七話)と近似したモチーフやストリーを持つ類話である。なお、『元亨釈書』(以下『元亨』)巻第一九・願雜一〇—四・靈恠六では、『驗記』七話と三七話の二話が連続して引用されている(それぞれ、一八・一九話)。即ち虎関師鍊も、これら二話を関連話として捉え、収載していることが分かる(後述)。

つまり鎮源は『極樂記』第七話をそのまま転写したものの、それに飽き足らず、同工異曲の第三七話を更に追加したということになる。またこの『驗記』第三七話は典拠研究の結果、<sup>(4)</sup>初出が『驗記』である(つまり同書独自の説話)と目されていることから、鎮源は『極樂記』をほぼそのまま引き写して『驗記』第七話とし、更にこれを改変して第三七話を創出したと推定できる。<sup>(5)</sup>つまりこの二話を比較することで、鎮源による『極樂記』説話の受容とその展開を検討できる。

## 二 第七話と第三七話の相違点から見える『験記』の思想

『験記』第七話（『極楽記』第七話の同文話）と、第三七話は、どちらも僧が生前に起こした執着心が要因となって蛇道に墮ちる、という説話である（第七話では、無空という律師が、生前に金銭を貯めていたが、その蓄財への執着によって蛇に転生する。第三七話は、康仙という僧侶が、生前に庭の橘の木を愛玩していたことにより、蛇に転生する）。

第七話と第三七話との相違点は以下の通りである。まず主人公に関して、第七話では単なる貧しい律師（「衣食常乏」『日思』五一七頁上）だったが、第三七話では謹厳実直な僧（「勤修事功德、調順三業、懺悔六根、及于老後不染惡縁」『日思』五二八頁下）へと高められている。一方執着の因は、第七話は金銭の貯蓄だったが、第三七話では橘の木の愛玩と、些細なものになっている。結果、第三七話は、より高次の僧侶がより些細な罪によって蛇道に墮してしまうという、さらに厳しい物語となっている。

これを明示するのが、蛇になった康仙を発見した寺僧たちが嘆きの台詞を発するという、第七話には見られない挿話である。

寺中諸僧……見之愁歎。微少罪業墮蛇道。何況広劫所作罪業、浩然無際。何時翻破、成就仏果矣。（『日思』五二八頁下）

ここで、鎮源は登場人物（寺僧たち）の口を借り、自身の説話解釈・思想を示していると言える。それは些細な罪への内省を糸口として更に重大な罪への内省をうながし、仏果成就の困難さをも示すという広がりのある寓意であり、単純な因果応報譚（吝嗇によって罰を受けるという一対一対応の寓意）であった第七話より複雑化・深刻化している。この罪業観の深化こそが鎮源の意図するところであり、『極楽記』説話の単純な引用から脱しての、彼の創意であると考えられよう。

### 三 後続の説話への影響

本節では、『験記』第三七話の後続説話への影響を見る。着目するのは、特に目立った改変が加えられた『今昔物語集』（以下、『今昔』）巻一三「六波羅僧講仙聞説法花得益語第四十二」と『元亨』巻一九・願雜一〇―四・靈恠六一―一九「講仙」を取り上げる。

まず『今昔』巻一三―四二だが、同話がなぜ着目すべきかと言うと、積極的に鎮源の意図に反する改変を施しているからである。目を引くのは『今昔』は、『験記』第三七話における、康仙の墮蛇道を知った寺僧の台詞を削除している点である。前述の通り、この台詞は鎮源の主張が最も色濃く反映さ

鎮源『法華驗記』と慶滋保胤『日本往生極樂記』（岡田）

れた箇所である。ただし、この台詞は後述する『元亨』を含め、後続のヴァリアントでは往々にして省略される傾向にあり、『今昔』に限った話ではない。<sup>(6)</sup>しかし『今昔』はそれにとどまらず、「由無キ事ニ依テ愛執ヲ発ス」（『新大系』二七三頁）という至極単純な教訓を付して代替としているのである。

のみならず、『驗記』では謹嚴な僧として描かれていた康仙（だからこそ、彼の墮蛇道が与えるインパクトも大きくなる）は、『今昔』では「世間難棄キニ依テ此ノ寺ヲ離レズシテ」（『新大系』二七二頁）という、『驗記』には見られない一文が付加されるなどし、「求法が貫徹できなかった世俗的な僧」という性格に改変されている。<sup>(7)</sup>これは「捨世間蓄」（『日思』五二八頁下）としていた『驗記』第三七話の人物設定とは真逆である。結果『今昔』巻一三四二は、「つまらない罪で、中途半端な僧侶が蛇道に墮した」という単純な寓意の物語になってしまった。そこには罪業への内省や仏道修行をめぐる思索の要素は希薄で、鎮源の意図を継承したとは言い難い引用になっている。一方『元亨』においては、寺僧の台詞は削除されたものの、そこで示されていた寓意が賛（説話末尾に付された解説文）に生かされている。

仙之養橘猶受蛇質。況貨財乎、又況色欲乎。（仏全一〇一、一三三六頁上）

この賛は、『驗記』における寺僧の台詞と極めて類似している。『驗記』『元亨』いずれも、この説話の寓意として、些細な執着ですらも報いがあるのだから、いわんやさまざまに犯した罪の重さはどれほどになるうか、という論を展開しているのである。更に言えば、虎関師鍊は説話の寓意を更にわかりやすくするため、寺僧の台詞内容を賛に移動させたとも推定できる。

第二節で指摘したように、『元亨』は『驗記』第七話と第三七話を同類型とみなしている。それによって両話の差異点、つまり第七話には見られず第三七話にのみ見られる寓意があることにも気づき、これを同話の特性として賛に反映したと推定されよう。

#### 四 結論

本研究では、『驗記』第七話（『極樂記』第七話と同文話）と、その展開と推定される第三七話を比較することで、鎮源がいかに『極樂記』を下敷きとしながら独自の法華説話集を作っていたか考察した。加えて、そうして示された『驗記』の独自性が、のちの説話伝播にどう影響を与えたかについても見た。結果、以下のように考察した。

第七話と比較すると第三七話は、主人公の性格とその執着の因に相違がもうけられ、これによって罪業の重大さをより

強調し、その上で、些細な罪から重大な罪へのつながりを歎ずるといふ内省を示し、仏果成就の困難さにも言及するようになっていいる。この罪業観の深化こそが鎮源の意図するところであり、典拠『極楽記』から脱して示した創意であったと言えよう。更に、この鎮源の創意が、『験記』第七話から第三七話への発展を意識していたらしき『元亨』には踏まえられていいる点を指摘した。

- 1 橋川「一九二四」等。
- 2 保胤は二十五三昧会、鎮源は釈迦講と、いずれも源信と関わり  
の深い講のメンバーだった（井上「一九七四」七一九頁）。
- 3 前掲の橋川「一九二四」、井上「一九七四」等。
- 4 本話の関連話については『新編』五六八頁・『国訳』三五一頁参  
考。
- 5 無論、第三七話の典拠が別に今後発見されることも有り得る。  
しかし、前述のように同話は鎮源が『極楽記』第七話の転載に飽  
き足らず追加したものであるから、「第七話と第三七話の比較に  
よって鎮源の編纂意図を探る」という本研究のコンセプトは変わ  
らない。
- 6 『拾遺往生伝』（巻中一二）、『発心集』（巻一八）、『元亨』『本  
朝高僧伝』ではいずれも省略・削除。
- 7 「験記は（中略）謹厳な修行者としての側面から捉えている  
が、本話はむしろ隠遁するには至れなかったことに重点を置いて  
いいる。」（『新大系』二七二頁注五）

鎮源『法華験記』と慶滋保胤『日本往生極楽記』（岡田）

〈テキスト〉

『験記』は井上光貞・大曾根章介校注『日本思想大系七』（岩波書店、一九七四、『日思』と略）、『今昔』は池上洵一校注『新日本古典文学大系三五』（岩波書店、一九九三、『新大系』と略）、『元亨』は仏全一〇一を用いた。また『日思』・仏全の引用の際、一部の句点を筆者の読解に従って読点に改めた。

〈参考文献〉

井上光貞「文献解題」（井上光貞・大曾根章介校注『日本思想大系七』（岩波書店、一九七四）七二八頁〜七二八頁）  
橋川正『日本仏教文化史の研究』（丙午出版社、一九二四）  
馬淵和夫・稲垣泰一・国東文麿『新編日本古典文学全集三五』（小学館、一九九九、『新編』と略）  
山本禅登『国訳一切経和漢撰述部史伝部十九』改訂二版、大東出版社、一九七八、『国訳』と略）

〈キーワード〉『法華験記』、『日本往生極楽記』、『元亨釈書』

（東京大学大学院）